令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　茨城県　】

学校名【　稲敷市立沼里小学校　】

１ 実践テーマ	Ⅲ
２ 実施対象者 （学 年・人 数）	第5学年　３５名 第6学年　２６名　　合計　６１名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　特別活動　） ② 行事名（　パラリンピック集会　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４ 目　標 （ねらい）	車いすバスケットボール選手の取組を知り、困難に立ち向かい、自分自身の生きる道を見つけ、力強く生きていくことの大切さを理解するとともに、障害者と健常者が共生できる社会を実現させていこうとする心を育てる。
５ 取組内容	１　国際パラリンピック委員会公認教材「I’ｍPOSSIBLE」を活用しての事前学習 ○　パラリンピック集会前に事前学習として、「I’ｍ POSSIBLE」を活用した授業を行った。 【実施内容】 ○　パラリンピックの価値について理解する。 ○　パラリンピアンの活躍や日々の様子を通して、「勇気」「強い意志」について理解し、自分事として考える。 ２　パラリンピック集会 ○　実施日　　令和３年１１月１２日（金） ○　実施時間　１３時２０分～１４時４５分 ○　講師　　車いすバスケットボールチーム　埼玉ライオンズ 監督　森田　俊光　氏 齋藤　智之　氏 種池　良太　氏 石原　正治　氏 ○　内容 ・講師の生い立ち、パラリンピック、車いすバスケットボールについての講演 ・車いすバスケットボールの体験 ・教師チームｖｓ講師チームのゲーム観戦 ・児童チームｖｓ講師チームのゲーム

	・競技用車いすの試乗体験 ・質疑応答 【講演会】 【教師ｖｓ講師】 【児童ｖｓ講師】 【競技用車いすの試乗体験】 ３　模擬体験や書籍を使っての事後学習 ○　アイマスク体験 アイマスクを着用して、日常生活の一部を体験することにより、視覚障害者の心情を感じ取らせた。 【視覚障害模擬体験】 【段差のある歩行体験】 ○　書籍を使っての事後指導 図書室にパラリンピックに関する本や福祉に関する本を読める環境を整え、パラリンピックや健常者と障害者が共生する社会づくりについての学習を実施した。 【福祉器具について調べる児童】
６ 主な成果	１　国際パラリンピック委員会公認教材「I’ｍPOSSIBLE」を活用しての事前学習 ○　パラリンピックという言葉を聞いていた児童は多かったが、障害者スポーツについて、より詳しく知ることができた。 ○　マイク・フログリーコーチの「階段を一段一段上がるように成長していこう」という言葉から、香西選手が苦手な勉強も努力したことに感銘を受けた児童が多かった。 ○　バスケットボールスポーツ少年団に所属している児童が多かったこ

	ともあり、車いすバスケットボールという種目は、児童にとっては身近に感じるパラリンピック種目であり、関心を高めてパラリンピック集会に臨むことができた。 ２　パラリンピック集会 ○　講師の話を直接聞くことにより、困難に立ち向かってきた姿や絶望から自分自身の生きる道を見つけ、力強く生きている姿を肌で感じ取ることができた。 ○　講師のデモンストレーションを見たり、講師チームと実際に車いすバスケットボールのゲームを体験したりしたことにより、パラリンピック競技への興味・関心が高まった。また、障害者の立場になって補助する人やルール・場などを工夫すれば、障害のあるなしにかかわらず同じようにスポーツを楽しむことができることを理解できた。 ３　模擬体験や書籍を使っての事後学習 ○　アイマスクを着用し、誰かに寄り添ってもらわないと動くことすらできないことを体験したことにより、視覚障害者の気持ちを感じながら歩行したり動いたりすることができた。 ○　オリンピック・パラリンピックに関する書籍だけでなく、福祉に関する書籍も活用し、児童が読めるようにしたことで、健常者と障害者が共生する社会についても興味・関心を高めることができた。
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	○　児童が親しみをもてるように、バスケットボールに似た競技である車いすバスケットボールのパラアスリートを講師として招聘したこと。 ○　聞くだけの講演会とならないよう、体験や見学を取り入れた集会活動を企画したこと。 ○　事前学習に「I’ｍPOSSIBLE」を活用し、事後の学習と合わせてパラリンピック集会と連携させたこと。 ○　講師との連絡・調整を十分に行い、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、本校の実態に即した計画を作成したこと。参加児童を５年生と６年生のみとし、４年生はオンラインで視聴したこと。
８ 主な課題等	○　新型コロナウイルス感染症対応を考慮しながら講師を人選し、依頼交渉や日程調整が難しいこと。 ○　今回の取組を一過性のイベントとして終わらせないよう、健常者と障害者が共生する社会づくりについて、学校全体で継続して学習していく時間を確保すること。
９ 来年度以降の実施予定	○　車いすバスケットボール以外の競技や、開会式や閉会式等大会を支えている人々の存在について、書籍等を活用し体育や特別活動の授業の中で学習する機会を設ける。 ○　外部から講師を招聘して、本物に触れることができる体験の機会を確保していきたい。